

# 城下町探訪 3 4

2009/11/19

## くいちがいていじろかぎて 食違・丁字路・鍵の手

戦国の山城から近世の城郭を中心として城下町がつけられるようになると、城の設計者としては城下町も城の防備の一貫として考えるようになりました。敵の攻撃を直接防ぐのは土塁や堀ですが敵が大人数で列をなして進攻出来ないように道幅を狭くしたり、道路を屈曲させるカギ型の道路にしたり丁字路をつくって行き止まりにしたりしています。

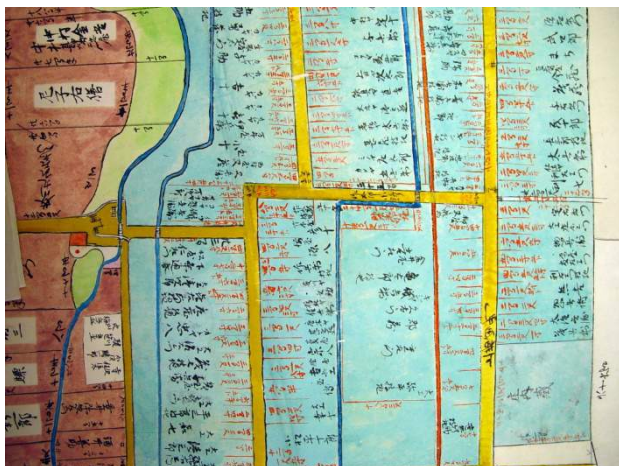
商都としての城下町の性格の面から考えると道路は直線が交わる碁盤の目のように造られるのが効率的で理想的ですが、実際の城下町では道路を直交させるのではなく、意図的にわざとずらして食い違いを設け、敵の移動を遅らせる防備がそこここに見られます。また享保十三年の秋改信州松本城下絵図や天保六年南北深志絵図を見ていると道筋が直線状に伸びるのではなくやや湾曲していたり、鈍角に曲げられていたりしているのを見ることが出来ます。これは遠くが見通せないようにした「遠見遮断」という工夫です。日本の近世城郭は西洋の城のように高く堅固な城壁を持たないのが普通です。そして城下町の町人は西欧の城塞都市の商人や技術者と違って非戦闘員であり、戦いの時は城下町から避難してよかったです。したがって、城の中心に向かって攻め寄せる敵に対して城下町の外縁には寺院が配置され、城下町の道路は戦略道路として設計されていたものと思われる。

### (1) 鍵型道路 (鍵の手)

松本の城下町では鍵型道路は「鍵の手」と呼ばれています。一番典型的なのが①袋町の「かぎの手」です。



松本城下に入った善光寺道は本町を北上し、中町へ直角に曲がり東進して更に北側に曲がって大橋を渡り東町を北に進みます。途中に絵図のようなかぎの手が設けられています。善光寺街道は更に前ページの矢印②のように屈曲して安原町。萩町へと抜けていきます。

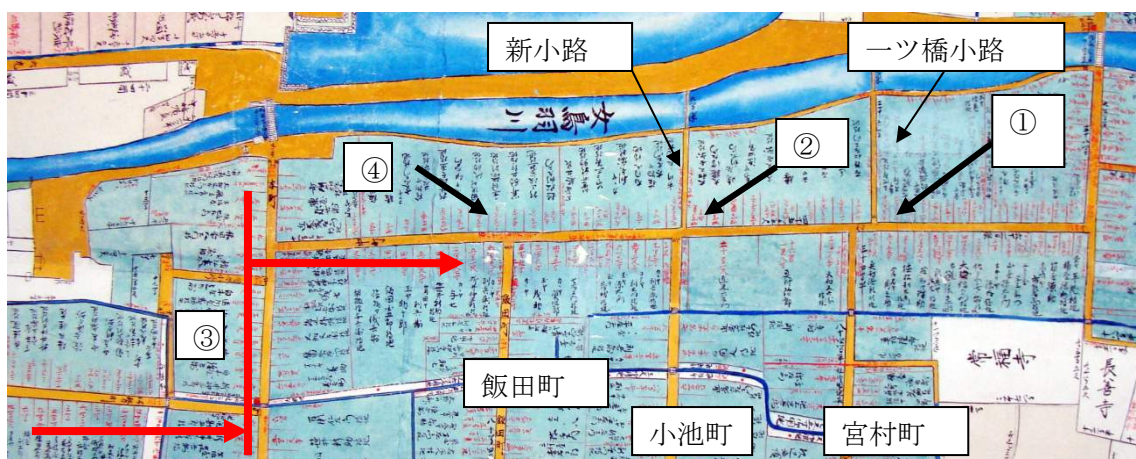


この様に昔の土蔵などの錠前を開ける鍵の形に似ているので「かぎの手」と呼ばれています。この箇所では直角に2回曲がらねばならないので進行が遅くなります。そこを待ち受けて攻撃を仕掛けることが容易になります。

クランク状の道路は前方を遮断して遠見がききません。戦略道路としての役割を十分に備えているといえます。

## (2) 「食い違い」と「丁字路」

道路を直交させないでわざとずらして交差させた道路を「食い違い」といいます。中町の食い違いを絵図で見てみましょう。



①は宮村町と中町が交差する箇所ですが一ツ橋小路は少しずれて道が付けられています。小池町方面から進んできた敵は道がずれていますから前方が見えません。さらに道幅が一ツ橋小路の方は2間と狭く造られています。現在自動車は一方通行になっており十分な注意が必要な所です。

②の所は小池町が中町と交差し新小路が少しずれて付けられて、食い違いになっておりますが、この箇所は城下町が造られた当初は新小路がなく丁字路となっておりましたが、信府統記によりますとこの中町新小路は「中町孫四郎願いにて屋敷の内を小路として肴店さかなとするなり」とあり、後からつくられたことがわかります。したがって城下町の縄張りの中で計画された食い違いでは無いことを知っておきたいものです。

③は伊勢町が本町にぶつかっています。伊勢町通りの延長線上に道路を開けた方がまっすぐで効率がいいはずですが、中町は少し北にずれて東に延びています。これも実は大きな食い違いになっています。

④は丁字路です。飯田町が中町にぶつかりその先に道がありませんから、進行してきた敵は左右に分散して進む事になります。あるいは前方が見えませんが右往左往して混乱します。江戸時代④地点からは中町の商家が邪魔をして天守は見えなかった筈です。明治以降この箇所は女鳥羽川に向かって道路が開かれ現在は十字路となっています。

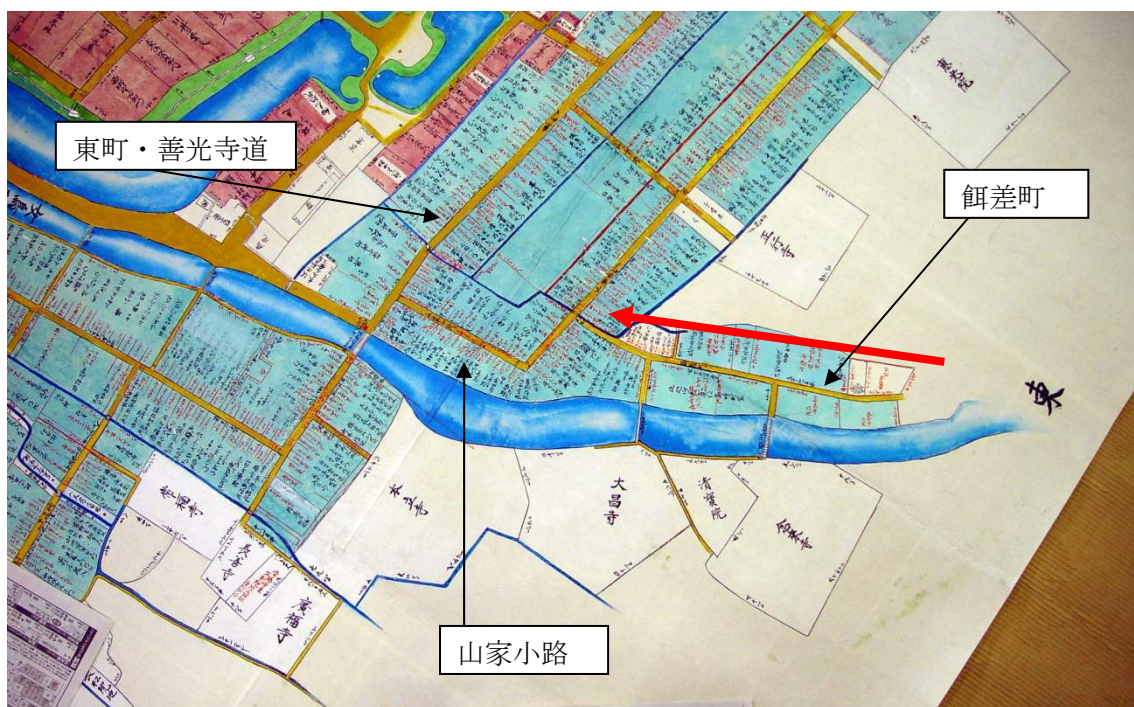
このような丁字路は城下町の至る所にみられます。戦いになれば城下町の至る所で戦略道路としての鍵の手・食い違い・丁字路で混乱したり、進行が遅くなった敵に藩士達が防戦をしたのだと思います・

こうした食い違いや丁字路は武家地の中にも見られます。下に城北の武家屋敷の絵図を掲げますので見つけて下さい。



### (3) 曲げられた道路

前ページの絵図の中心に位置する幅の広い道路が善光寺街道です。安原町から萩町を経て大木戸をぬければ城下町の外です。この道路が微妙に曲がっており直線でないことに気がつかれたと思います。メイン道路が遠見遮断の原則に従って曲がってつくられています。



上の絵図は城下町に東の方から入ってくる<sup>えさしまち</sup>餌差町の道路です。ここも緩やかに曲げられ、下横田町にぶつかり左に曲がると鍵の手があり<sup>やまべこうじ</sup>山家小路に出ます。ここにも遠見遮断の原則が生かされた道づくりがされています。

#### ○川南の町人地の町割り（都市計画）

川南の町人地の道路は直線的につくられています。メイン道路の本町、東側に飯田町、



小池町、宮村町の通りが、南北に並んでいますこの町割りは城下町の担う機能である経済活動の利便性を考え直路を採用し経済発展を強く意識していたことが分かります。勿論、城下町の防備を考え寺社を城下町の外縁に配したり、中町筋で丁字路や食い違いを設けていることは先述した通りです。